

補章
プラハ・ゴシック探訪

ヴルタヴァ川左岸地区フラツチヤメイ（城地区マラー・ストアラと小地区）

- 1 聖ヴィート大聖堂
- 2 プラハ城内王宮、ヴラヂスラフ・ホール、騎士の階段
- 3 プラハ城北側要塞（狭間胸壁）、火薬塔（ミフルカ）、白塔、ダリボルカ
- 4 聖トマーシュ教会
- 5 鎖の下の聖母マリア教会
- 6 カレル橋、小地区橋塔、旧市街橋塔

ヴルタヴァ川右岸地区（旧市街 新市街 ヴイシエフラット）

- 7 聖アンナ教会
- 8 ベツレヘム礼拝堂（一九五四年再建）
- 9 聖イリイー教会
- 10 旧市街市庁舎
- 11 石の鐘のもとの家
- 12 テイーンの前の聖母マリア教会（テイーン教会）
- 13 テイーン（ウンゲルト）
- 14 聖ヤクブ教会
- 15 聖霊教会
- 16 旧新シナゴグ

17 聖アネシユカ修道院

- 18 聖ハシユタル教会
- 19 聖クリメント教会
- 20 聖ペートル教会
- 21 火薬門
- 22 カロリーヌム（カレル大学）のゴシックの核
- 23 聖ハヴェル教会
- 24 雪の聖母マリア教会
- 25 壁の中の聖マルチン教会
- 26 フ・オパトヴィツェの聖ミハル教会
- 27 新市街市庁舎
- 28 ヴ・イルハージーフの聖ヴオイチエフ教会
- 29 ナ・ズデラゼの聖ヴァーツラフ教会
- 30 聖母マリア教会とナ・スロヴァネフ修道院（エマウズイ）
- 31 ナ・スルピの聖母マリア受胎告知教会
- 32 ヴイシエフラットの聖ペートル（ペテロ）とパウエル（パウロ）教会
- 33 ナ・カルロヴィエの聖母マリアと聖カール大帝教会と、新市街の要塞の残り
- 34 聖アポリナーシュ教会
- 35 聖カテジナ教会の塔
- 36 聖シュチェパーン教会
- 37 聖インドジフ教会とインドジフ塔

その他(再びヴルタヴァ川左岸地区)

38 飢えの壁

39 ナ・プラードレの聖ヤン(洗礼者ヨハネ)教会

40 ラピダリウム(石造彫刻博物館)

一 ヴルタヴァ川左岸地区（城地区と小地区）

プラハ、チェコ

チェコ・ゴシックの遺産はチェコ各地にあるが、やはり、ゴシック時代にチエコ王国と神聖ローマ帝国の首都であったプラハには、突出して多くの遺産がある。ただし、ゴシック様式で建てられた建物も、後に他の様式、特にバロック様式で増築や改築がされている場合が少なくない。

補章では、プラハの街を実際に歩いてゴシックの遺産を巡るといふ意匠のもとに、プラハ・ゴシックの遺産には具体的にどのようなものがあるのかを網羅的に見ていくことにする。ただし、細かいデータを挙げると煩瑣になるので、個々の遺産については簡潔に記述するにとどめる。

この補章は、実際にプラハの街を歩く時のガイドとして利用することもできるだろうし、これを利用してグーグル・マップのストリート・ビューを用いたヴァーチヤル・ツアーを行うこともできるだろう。実際に歩く時には、地図と方位磁石が必須だ。グーグル・マップの使えるスマートフォンを携行すると良いだろう。

1 聖ヴィート大聖堂

まずは、何と言っても、チェコ・ゴシック最大の建造物であり、プラハの丘の上に聳えて威容を見せる聖ヴィート大聖堂（聖ヴィート・ヴァーツラフ・ヴォイチェフ大聖堂）から訪れてみよう。

聖ヴィート大聖堂は、珍しいことに城の敷地内にある。大聖堂の西側が入口になっているが、西側には尖塔の双塔が聳えている。中央の門の上のティンパナムにはイエス・キリストの磔刑のレリーフ、北側（向かって左側）の門の上のティンパナムには東方三博士の礼拝のレリーフ、南側（向かって右側）の門の上のティンパナムにはキリスト昇天のレリーフがある。外からは、中央の門の上に大きな薔薇窓の枠組みの模様が見えるが、中に入ると見ると、その薔薇窓のステンドグラスは天地創造を描いている。内部には多くの礼拝堂、ステンドグラス、彫像、レリーフなどがあるが、簡単に配置を示すと、図五のようになっている。この図には示されていないが、トリフォリウムには、上部に聖者たち——聖キュリロス、聖メトディオス、聖ジクムント、聖ヴィート、キリスト、聖母マリア、聖ヴァーツラフ、聖ルドミラ、聖ヴォイチェフ、聖プロコプ——、下部にカレル四世とその妻を始めとする王族たち、歴代のプラハ大司教たち、大聖堂の建造者たち——アラスのマテイアーシュやペトル・パルレーシュなど——の多くの胸像が付いている。このような堂々たる胸像のギャラリーは、ヨーロッパの他の大聖堂には類を見ないと言われる。そのほかにも、終章でも述べたように、建物の内部と外部の随所に、動物——ライオン、熊、鷲、ペリカン、鹿、馬、猫など実在の動物と、グリフォン、キメラ、ドラゴン、フェニックス、ユニコーンなど架空の動物——、植物、デフォルメされたグロテスクな人間の顔、マスクロン、悪魔など、興味深い彫刻装飾が夥しく付いている。

図一 聖ヴィート大聖堂・西側



図二 聖ヴィート大聖堂・南側



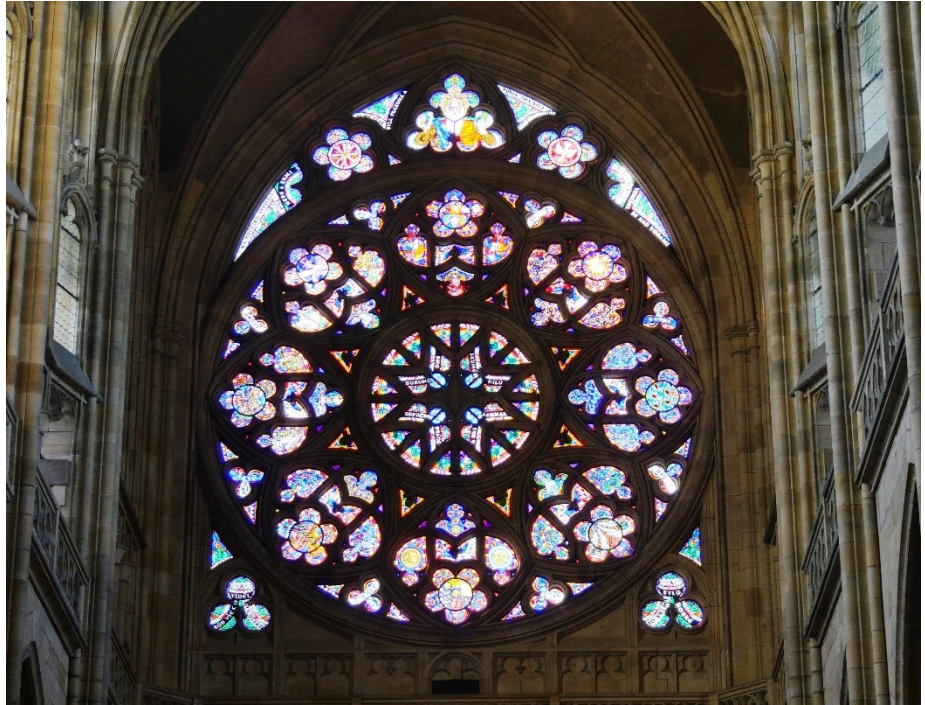
図三 聖ワイト大聖堂・東側



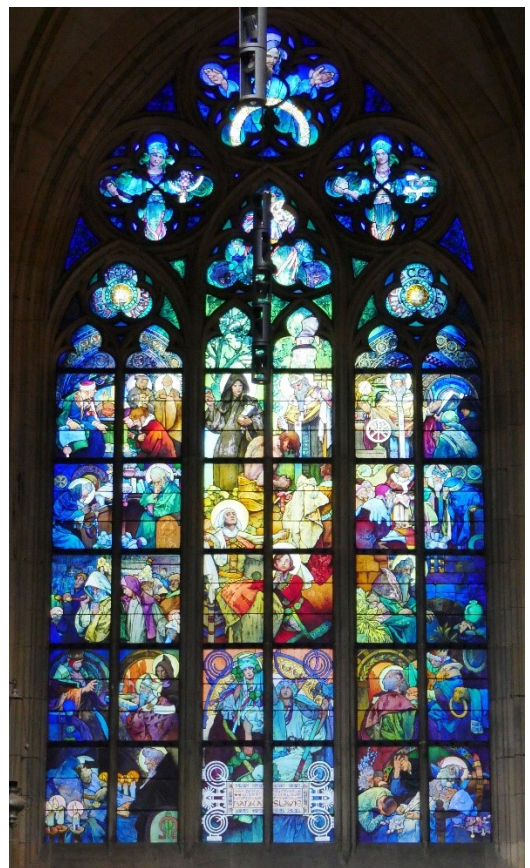
図四 聖ワイト大聖堂・北側



図五 聖ヴィート大聖堂西側薔薇窓



図六 アルフォンス・ムハ（ミュンヤ）（二八六〇〜一九三九）の「スラヴの使徒・聖キュリロスとメトディオス」に基づくステンドグラス



再び外に出て南側に回ると、「黄金の門」という入口がある。カレル四世の時代に正面入口であったこの門の上には、最後の審判のモザイクがあるが、ここはもともと広範に金箔が張られて輝いていたために、「黄金の門」と呼ばれる。東側に回ると、ゴシックの大聖堂の特徴であるフライング・バットレス（飛び梁）がたくさん突き出ているのが見える。

実は、この大聖堂は、ゴシック時代に造られたのは東側の約半分で、宗教戦争などにより建設が中断し、一九世紀後半になってから建設が再開されて西側が造られ、全体が完成したのは二〇世紀になってからであり、何と約五八〇年もかけて建築された。しかも、大聖堂建築開始以前にも、ここには聖ヴァー

ツラフを祀ったロトンダ(円形聖堂)があり、そこから大聖堂の内陣が造られていったのである。

したがって、この大聖堂のうちゴシックの部分は、内陣を含む東側の約半分だけであり、この大聖堂のシンボルとも言うべき西側の双塔はネオ・ゴシック様式、南側の大きな塔の上部と中央部の短い塔はバロック様式である。

2 プラハ城内王宮、ヴラヂスラフ・ホール、騎士の階段

聖ヴァイト大聖堂南側の「第三の中庭」の東側に旧王宮への入口がある。ここから中へ入ると、後期チェコ・ゴシック建築を代表するヴラヂスラフ・ホール(図一一六)を見ることができる。また、そのホール脇の旧議事堂(図一一七)や「騎士の階段」のヴォールトも興味深い。

3 プラハ城北側要塞(狭間胸壁)、火薬塔(ミフルカ)、白塔、ダリボルカ

聖ヴァイト大聖堂の北側に回り、その小路にある北側への出口から火薬塔(ミフルカ)の方へ行くことができ、そこには要塞の一部である狭間胸壁はざませきようへきがあり、たくさんの銃眼が並んでいる。



図七 プラハ城北側要塞(狭間胸壁)と火薬塔(ミフルカ)

聖ヴァイト大聖堂東側の聖イジー広場に面した聖イジー・バシリカの右横を通り、暫く行つてから左折して進むと、「黄金の小路」に至る。そこを左に行くと、牢獄としても用いられるようになった白塔と拷問器具博物館があり、そこで中世に用いられた様々な拷問器具を見ることができる。



図八 プラハ城・白塔

「黄金の小道」の先にあるダリボルカはプラハ城の北東の端にあるが、城の敷地の中から見るとは難しく、見たければ、プラハ城の北に広がる「王の庭園」の東端にある夏の別荘ベルヴェデーレまで行き、その南側の展望テラスへと階段を降りれば良い。



図九 プラハ城・ダリボルカ(下)

4 聖トマーシュ教会

今度は、小地区の方へ下りて行く。プラハ城の西側のフラツチャヌイ広場の東南端の建物の右を入り、「城の階段 (Zámecké schody)」を降りて、トゥノフスカー通り (Thunovská) をまっすぐ東へ進むと、トマーシユスカー通り (Tomášská) に突き当たる。そこを右折してすぐにレテンスカー通り (Letenská) に出てから左折すると、すぐに左に入る小路があり、聖トマーシュ教会の塔が見える。周囲の道が狭くて建物が密集しているため、道からは教会の一部しか見ることができない。

聖トマーシュ教会はゴシック時代に建築されたが、フス戦争の時代に破壊されて再建された後、何度か改築され、現在の外観はバロック様式になっている。

図一〇 聖トマーシユ教会



5 鎖もとの下の聖母マリア教会

聖トマーシユ教会南側のヨゼフスカ通り (Josefská) を南下すると、モステツカー通り (Městská) に突き当たる。そこを左折して少し行き、右折して狭いラーゼニスカ通り (Lázeňská) に入り、暫く行くと、左側に鎖の下の聖母マリア教会がある。ゴシック時代の建物はルネサンス時代とバロック時代に改築されている。

図一一 鎖の下の聖母マリア教会



6 カレル橋、小地区橋塔、旧市街橋塔

ラーゼニスカ通りを元来た方へ戻り、モステツカー通りに出たら右折すると、進行方向にカレル橋の西端の小地区橋塔が二つ——左が高い塔、右が低い塔——見える。低い方の橋塔は、カレル橋の前にあったユディタ橋の名残である。そのまま進んでカレル橋を渡ると、東端には旧市街橋塔 (図二一七) がある。この塔には上ることができ、上からはカレル橋 (図二一六) やプラハ城などを一望のもとに見渡すことができる。



図一三 カレル橋の小地区橋塔（カレル橋の上から見たところ）

二 ヴルタヴァ川右岸地区（旧市街、新市街、ヴィシエフラット）

7 聖アンナ教会

ヴルタヴァ川右岸の旧市街にはゴシックの遺産が多く、比較的密集している。新市街にも少なからずあるが、比較的広い地域に散在するので、適宜、路面電車や地下鉄を使うのが良いが、ここでは徒歩で行く道順を示すことにする。

カレル橋から旧市街に入り、最初の交差点で右折してスメタナ河岸通り (Smetanovo nábřeží) を南下し、すぐにアネンスカー通り (Anenská) へと左折

し、またすぐに右折して、少し開けたアネンスケー広場 (Anenské náměstí) に出る。広場を少し進んで左折し、狭いズラター通り (Zlatá) を東進すると、正面に聖アンナ教会が見えてくる。



図一四 聖アンナ教会

8 ベツレヘム礼拝堂（一九五四年再建）

聖アンナ教会の右横を東進し、リリオヴァー通り (Lilová) に出たら右折し、そのままリリオヴァー通りを南進すると、ベトレームスケー広場 (Betlémské náměstí) に出る。その左側にベツレヘム礼拝堂がある。この礼拝堂は、前述のように、ヤン・フスが説教師を務めたことで有名な礼拝堂であるが、現在の建物は二〇世紀になってから再建されたものである。

図一四 ベツレヘム礼拝堂



ベツレヘム広場を東進してフソヴァ通り (Husova) に出たら左折すると、通りの右側に聖イリイー教会がある。外観はゴシック様式を保っているが、内部はバロック様式で手直しされている。



図一五 聖イリイー教会

10 旧市街市庁舎

そのままフソヴァ通りを少し北進すると、道が二股に分かれるので、右のヤロフツォヴァー通り (Jalovcova) に入り、少し行ってイルスカー通り (Jirska) に出たら、そのまま北進する。突き当たりを右折してマレー広場 (Male náměstí) に出たら、その東が旧市街広場で、そこに旧市街市庁舎がある。



図一六 旧市街市庁舎

11 石の鐘のもとの家

12 ティーンの前（右奥）の聖母マリア教会（ティーン教会）

旧市街広場の東側には、ティーン教会の高い双塔が見え、その手前左（北）に石の鐘のもとの家がある。ティーン教会の手前には建物が並んでいて教会が見えにくい。旧市街市庁舎の時計台の上にエレベーターで昇ると、より良く見渡せる。



図一七 石の鐘のもとの家（左手前）とティーン（前の聖母マリア）教会（右奥）

13 ティーン（ウングルト）

石の鐘のもとの家の右側の細いティーンスカ通り（*Týnská*）に入り、ティーン教会を右に見ながら奥へ進むと、ティーン（ウングルト）と呼ばれる中庭に出る。ここは、ゴシック時代に外国人商人のために作られた施設の名残であり、中庭の回りにはゴシック建築がある。

14 聖ヤクブ教会

図一八 テイーン (ウングルト)



テイーンを更に奥へと東進し、マラー・シュトウパルトスカー通り (Mala
Šupatska) に出ると、左に聖ヤクブ教会がある。ゴシック時代の建物がバロッ
ク時代に手直しされている。

図一九 聖ヤクブ教会



15 聖霊教会

マラー・シュトパルトスカー通りを北進し、マスナー通り (Masna) に出た
ら左折し、五叉路に出たら、同じ方向のフ・コルコヴニエ通り (V Kolkovne)
を北西へと進むと、突き当たりに聖霊教会がある。ゴシック時代の建物がバロ
ック時代に手直しされ、その後更に一部増改築されている。



図一〇 聖霊教会

16 旧新シナゴグ

聖霊教会の前のシロカー通り (Široká) を西進し、マイセロヴァ通り (Maiselova) まで来たら右折し、暫く北進すると、旧新シナゴグがある。これは、現存するヨーロッパ最古のシナゴグ(ユダヤ教の会堂)の一つである。



図二二 旧新シナゴグ

17 聖アネシユカ修道院

聖アネシユカ修道院はチェコ国立美術館中世美術分館となっており、チェコと中欧の中世美術の宝庫である。本書でも言及してきたトシエボニの祭壇のマスターが描いた「美麗様式」の絵画や、やはり「美麗様式」の聖母子像やピ

エタなどを展示しており、ゴシック美術に触れたい者にとっては必見の場所である。

マイセロヴァ通りをそのまま北進し、ブジエホヴァー通り (Břehova) に出たら右折し、パリ通り (Pražská) を渡ってビールコヴァ通り (Bilkova) を東進し、コズイー通り (Kozí) に突き当たったら左折して北進する。ウ・ミロスルドヌイーフ通り (U mláostnych) との交差点を右折し、そのままアネシユスカー通り (Anežská) の方まで来ると、聖アネシユカ修道院がある。



図二二 聖アネシユカ修道院

18 聖ハシユタル教会

聖アネシユカ修道院の前のアネシユスカー通りを少し南進するとハシユタルスクー広場 (Hasišské náměstí) に出るが、そこに聖ハシユタル教会がある。ゴシック時代の建物が、バロック時代に火災に遭った後、手直しされた。



図二三 聖ハシユタル教会

19 聖クリメント教会

聖ハシユタル教会の南側のハシユタルスカー通り (Háskarská) を少し東進し、リブナー通り (Rybna) へと右折して南進し、ドロウハー通り (Dlouhá) に出たら左折して、大きなレヴォルチニー通り (Revoluční) まで行く。通りを渡ってレヴォルチニー通りを北進し、クリメントカスー通り (Klimentská) へと右折して東進すると、左に聖クリメント教会がある。ゴシック時代の建物が何度か手直しされている。



図二四 聖クリメント教会

20 聖。ペトル教会

クリメントカスー通りをそのまま東進し、サムツオヴァ通り (Samcova) へと右折して南進し、ペトルスカー通り (Petrská) まで来ると、左に聖。ペトル教会がある。ゴシック時代の建物が何度か改築されている。



図二五 聖。ペトル教会

21 火薬門

聖ペトル教会前のビスкупスカー通り (Biskupská) を南進し、ナ・ポジーチー通り (Nápoští) に突き当たったら右折し、そのまま西へ進んで共和国広場 (Náměstí Republiky) に出たら左折すると、市民会館 (Obecní dům) が見え、その左に火薬門がある。

この立派な門は、旧市街の市壁の門の一つが一四七五年に旧市街橋塔を模範にして建て替えられた、より新しい後期ゴシック時代の門であり、初めは「新門」と呼ばれていた。一四世紀末から、この門に隣接する場所に宮廷が置かれて、ヴァーツラフ四世以降のチェコ王たちが——プラハ城ではなく——旧市街の宮廷に住むようになったため、この場所にある門の重要性も増した。そしてヤギェウォ家のヴラヂスラフ二世が新しい門の礎石を置き、後にこの門は「王の塔」とも呼ばれるようになった。しかしながら、ヴラヂスラフ二世は、宗教的紛争の中で身の安全のために一四八三年に再びプラハ城に移り、更に一四九〇年にハンガリー王となってブダに移ってしまったため、この門は未完成のまま残された。その後増築がなされたが、一八世紀中葉にプロイセン軍にプラハが包囲された際に被害を受け、その後火薬庫として使用されたため、「火薬門」と呼ばれるようになった。一九世紀になってから、更にネオ・ゴシック様式に改築された。



図二六 火薬門

22 カロリーヌム (カレル大学) のゴシックの核

火薬門のすぐ横を通ってツェレトナー通り (Celtná) を西進し、果物市場 (Ovocný trh) へと左折し、正面に見える等族劇場 (Stavovské divadlo) の右(北側)の細い道を行くと、右にカロリーヌム(カレルの学寮)があり、建物からゴシック様式の張り出し窓が出ているのが見える。これは、現存する最古のカレル大学の建物であり、現在では学長室や大学本部や式典会場などを含む、カレル大学の中核部になっている。



図二七 カロリーヌム(カレル大学)の張り出し窓

23 聖ハヴェル教会

果物市場をそのまま西進し、突き当たったら、建物の右側を回るように右折して左折し、少し行くと、左に聖ハヴェル教会がある。この教会もゴシック様式で建てられたが、後にバロック様式に改築された。



図二八 聖ハヴェル教会

24 雪の聖母マリア教会

聖ハヴェル教会の前のハヴェルスカ小路 (Havelská ulička) へと左折し、南進してすぐにリチーシユスカ通り (Rytířská) に突き当たったら右折する。ナ・ムーストク通り (Náměstí) へと左折して南進すると、ヴァーツラフ広場に出る。そこで十月二十八日通り (28. října) へと右折して少し西進し、ユングマン広場 (Jungmannovo náměstí) に出ると、広場の東側に雪の聖母マリア教会 (図二一三・四) がある。第二章で述べたように、初めは非常に大きな教会堂として計画されたが、その計画が実現しなかった上、フス戦争の時代に塔やそ

他の部分が破壊されたため、巨大な教会堂にはならなかった。

25 壁の中の聖マルチン教会

ユングマン広場から西へと伸びるナードニー通り (Narodni) を西進し、ナ・ペルシユテイーニエ通り (Na Peršýně) へと右折する。少し進んでからマルチンスカー通り (Martinská) へと右折して少し行くと、右側に壁の中の聖マルチン教会がある。



図二九 壁の中の聖マルチン教会

26 フ・オパトヴィツィーフの聖ミハル教会

再びナードニー通りに戻って西進し、ミクラントスカー通り (Mikulandská) へと左折し、オストロヴニー通り (Ostrovni) に突き当たったら右折し、すぐにオパトヴィツィカー通り (Opavická) へと左折して少し進むと、右側に聖ミハル教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築されている。



図三〇 聖ミハル教会

27 新市街市庁舎

オパトヴィツカー通りを南進し、突き当たりを右折してすぐにチェルナー通り (Cena) へと左折して南進して行くと、ミスリーコヴァ通り (Myslíkova) に出る。そこを左折してすぐにスパレーナー通り (Spálena) に突き当たったら右折すると、その先にカレル広場 (Karlovo náměstí) がある。広場の北側で左折すると、広場の北東端に新市街市庁舎がある。



図三二 新市街市庁舎

28 ヴ・イルハーギーフの聖ヴォイチエフ教会

ミスリーコヴァ通りの方へ戻り、暫くこの通りを西進する。ヴォイチエシユスカー通り (Vojštická) へと右折して北進すると、右側に聖ヴォイチエフ教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築され、一部バロック様式になっている。



図三三 聖ヴォイチエフ教会

29 ナ・ズデラゼの聖ヴァーツラフ教会

ヴォイチエシユスカー通りを南進し、そのまま続くナーブラヴニー通り (Náplavni) とデイトリホヴァ通り (Ditichova) を南進し、大きなレスロヴァ通り (Reslova) に出ると、通りの向こう側の左角に聖ヴァーツラフ教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築され、一部バロック様式になっている。



図三三 聖ヴァーツラフ教会

30 聖母マリア教会とナ・スロヴァネフ修道院 (エマウズイ)

再びデイトリホヴァ通りを南進し、ナ・モラーニ通り (Na Morani) に突き当たったら左折して進むと、カレル広場の西南端から南に続くヴィシェフラツトスカー通り (Vyschradzka) に出る。そこを南進して暫く行くと、右側に聖母マリア教会とナ・スロヴァネフ修道院が見えてくる。教会の手前の小さなナ・スロヴァネフ通り (Na Slovanech) へと右折すると、教会の方へ行ける。この教会と修道院はゴシック時代に創設されたが、後の時代に何度か改築され、更に第二次世界大戦中に大きな被害を受けた後、新しい様式を取り入れて造り直されたため、元のゴシック様式を保っているのは一部である。



図三四 聖母マリア教会とナ・スロヴァネフ修道院

31 ナ・スルピの聖母マリア受胎告知教会

再びヴィシエフラットスカー通りを南進すると、道が分かれるので、左側のナ・スルピ通り (Nasipj) の方へ行く。通りを南進すると、左側に教会と病院が見えるが、そのまま南進すると、右からスヴォボドヴァ通り (Svobodova) が合流する所の少し先に、聖母マリア受胎告知教会がある。

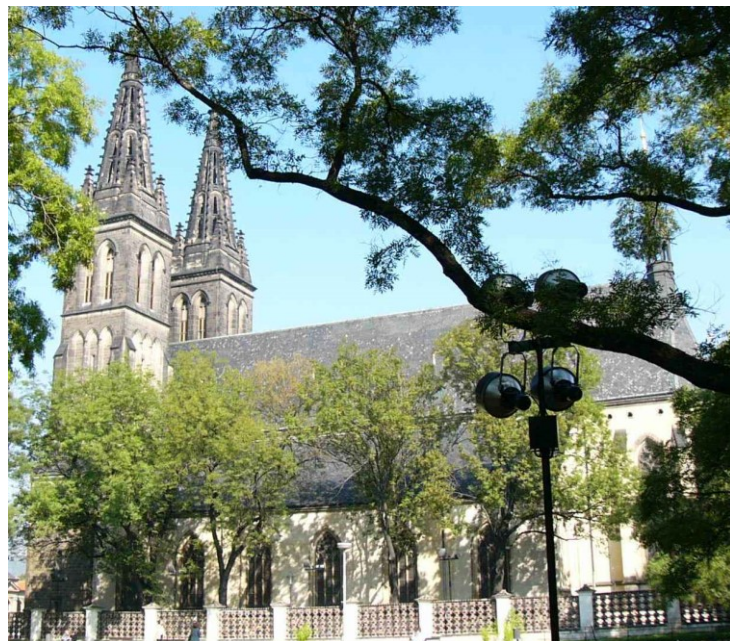


図三五 聖母マリア受胎告知教会

32 ヴィシエフラットの聖ペトル (ペテロ) とパウエル (パウロ) 教会

スヴォボドヴァ通りに入って西進し、ヴィシエフラットスカー通りから続く鉄道の高架下の道を通って暫く行くと、突き当たりで左がヴラチスラヴォヴァ通り (Vratislavova)、右がリブシナ通り (Ljubina) 通りに分かれる。左折して左のヴラチスラヴォヴァ通りに入って暫く上っていくと、門がある。門の下を通って中に入ると、そこはヴィシエフラットの敷地内である。そのままフ・ペヴノスチ通り (Vpevnosti) の坂を上り、ク・ロトウンヂェ通り (Krountě) へと右折して進むと、右側に聖ペトル (ペテロ) とパウエル (パウロ) 教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築されている。

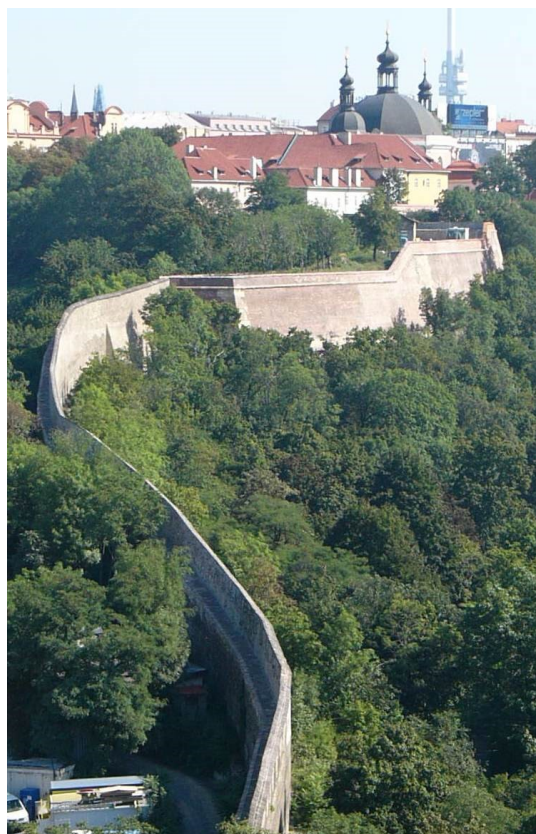
かつてヴィシエフラットには立派な城や教会などがあったが、フス戦争の時代に破壊された。ヴィシエフラットは現在、全体として城址公園になっている。



図三六 聖ペートル（ペテロ）とパウエル（パウロ）教会

33ナ・カルロヴィエの聖母マリアと聖カール大帝教会と、新市街の要塞の残り

ク・ロトウンジェ通りを戻って、フ・ペヴノスチ通りに突き当たったら、今度は右折してレオポルト門の方へ上がっていく。すぐ左にある聖マルチン・ロトウンダ（円形聖堂）を過ぎると左に上る小道があるので、そこを上って行くくと、ヴィシエフラットの北東側の城壁の上の、見晴らしの良い回遊路に出る。回遊路を暫く進むと、北東方向に、新市街の要塞の残りの壁と、その先に聖母マリアと聖カール大帝教会の丸屋根が見える。この教会はフス戦争の時代に破壊されて、一六世紀になってから修理された。



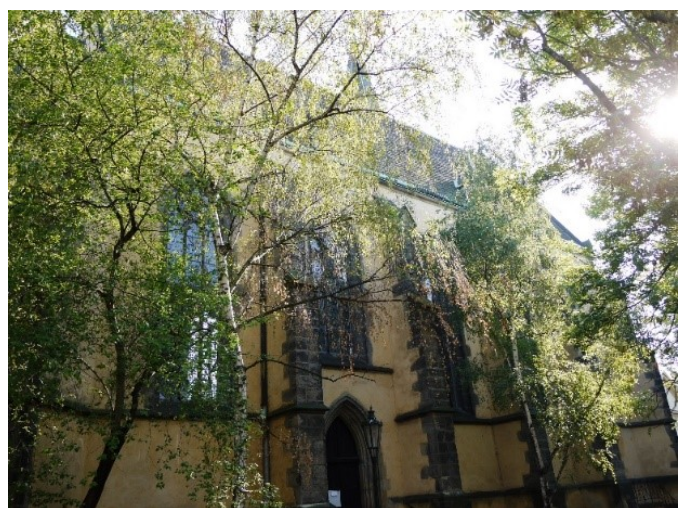
図三七 聖母マリアと聖カール大帝教会と、新市街の要塞の残り

回遊路をそのまま進むと道が分かれるので、下に降りる左側の小道を行くと、元来たフ・ペヴノスチ通りに出る。元来た道を下ってずっと戻って行き、聖母

マリア受胎告知教会の前のナ・スルピ通りに突き当たったら、今度は右折して南進する。少し進んでから、狭いホルスカー通り (Horka) へと左折し、カレル大学自然科学部の建物前を通って、先ほど見た新市街の要塞の残りの壁のすぐ左側を進む。その先で道が狭い階段に変わるが、その階段を上り、再び上の道 (ホルスカー通り) に出て少し行くと、左に聖母マリアと聖カール大帝教会 (図二一五) がある。

34 聖アポリナーシユ教会

聖母マリアと聖カール大帝教会の前の公園の北側の左端から北へ延びるケ・カルロヴ通り (Ke Karlovu) を北進し、アポリナーシユスカー通り (Apolinářská) へと左折して暫く進むと、左に聖アポリナーシユ教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築されている。

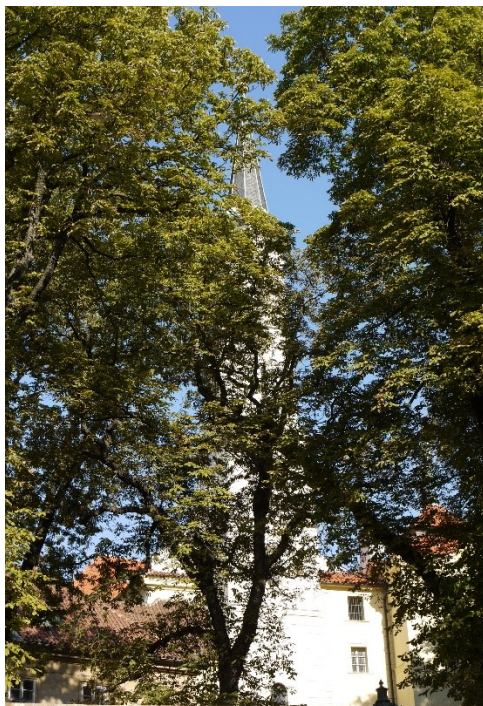


図二八 聖アポリナーシユ教会

35 聖カタジナ教会の塔

アポリナーシユスカー通りを戻って少し東進し、ヴィニチナー通り (Viničná) へと左折して北進すると、右側に高い壁が続き、壁の向こうに緑豊かな木々が生えている。そこが広い神経科病院の敷地である。壁に沿ってカタジンスカー通り (Katejnská) へと右折すると、その右側の壁の向こうに聖カタジナ教会の塔が見える。壁と建物に遮られているため、塔の上部が僅かに見えるだけであ

る。カレル四世の時代に建てられたゴシック様式の教会堂はフス戦争の時代に破壊されて塔だけが残り、その後、バロック時代に別の教会堂が建てられた。



図三九 聖カテジナ教会の塔

36 聖シュチェパン教会

カテジンスカー通りを西へ少し戻り、すぐに右折してリーポヴァー (Lipová) 通りを北進し、大きなイエチナー通り (Ječná) を渡って、そのままシュチェパーンスカー通り (Štepaňská) を北進すると、右側に聖シュチェパン教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築されている。

図四〇 聖シュチェパン教会

37 聖インドジフ教会とインドジフ塔

長いシュチェパーンスカー通りをずっと北進すると、ヴァーツラフ広場に出る。そこで左折し、広場を渡ってインドジフスカー通り (Jindřišská) へと右折し、そのまま東進すると、奥にインドジフ塔が見えてくる。そのまま進むと、セノヴァージュネー広場 (Senovážné náměstí) に出る所で、左にインドジフ塔、右に聖インドジフ教会がある。ゴシック時代の建物は何度か改築されている。





図四一 聖インドジフ教会（手前）とインドジフ塔（奥）

以上で、プラハのゴシックの主な遺産はほぼ見たことになる。後は、ヴルタヴァ川左岸地区に若干の遺産が残っている。

三 その他

再びプラハ城前に行き、フラツチャヌイ広場 (Hradčanské náměstí) から始めることにする。

38 飢えの壁

フラツチャヌイ広場の南西側の端から西に伸びるロレターンスカー通り (Loretánská) を西進し、ロレターンスケー広場 (Loretánské náměstí) と外務省の建物になっているチェルニーン宮殿を過ぎるとすぐに三叉路に出るので、そこを一八〇度戻るように左折して、ウーヴオス通り (Uvoz) を東に進む。少し行くと、右側に展望路への入口があるので、そこを入ると、ペトシーンの丘に広大な公園が広がり、そこからプラハのパノラマを楽しめる。展望路を進むと、途中で何度か道が分かれるが、常に上の方の道を進み、階段を上がって行くと、ペトシーンの展望塔に至る。そのすぐ南側に「飢えの壁」がある。狭間胸壁などが付けられたこの壁は、城地区と小地区の要塞の一部であるが、飢饉の時に貧民に仕事を与える経済対策としての意味があったのでこの名が付いたと言われる。当時の市街からかなり離れた場所に造られたのは、カ



図四二 飢えの壁

レル四世が市街の拡張を想定していたからである。

39ナ・プラードレの聖ヤン教会

展望塔の右の北東方面へ、庭園の中を通過して勝利の聖母マリア教会の方へ向かう遊歩道を下っていくと、やがて南北に伸びるカルメリトスカー通り(Karmelitska)か、それに続くウーイエスト通り(Ujzd)に出る。ウーイエスト通りを南進し、右側のケーブルカーの駅を過ぎてからジーチニー通り(Rim)へと左折して少し行くと、左側にナ・プラードレの聖ヤン(洗礼者ヨハネ)教会がある。ゴシック時代の建物はバロック時代に手直しされている。



図四三 聖ヤン(洗礼者ヨハネ)教会

41ラピダリウム(石造彫刻博物館)

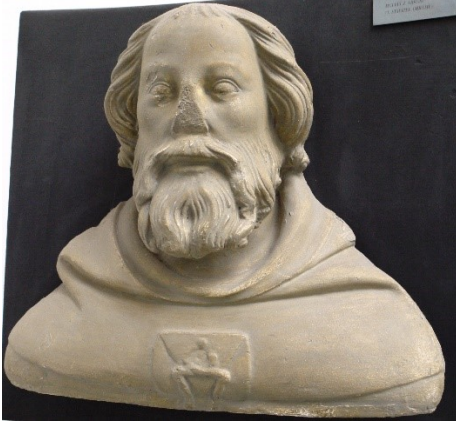
このほか、地図には示していないが、ヴルタヴァ川を越えたプラハ北西部のブベネチ地区にあるラピダリウム(石造彫刻博物館)には、聖ヴァイト大聖堂の内陣のトリフォリウムに付いている胸像(図四四～四七)などのゴシック彫刻が展示されている。これらの胸像は、本書の登場人物である、チェコ・ゴシック時代の重要人物たちのものである。



図四四 プシエミスル家のエリシュカ(カレル四世の母)とルクセンブルク家のヨハン(ヤン)(カレル四世の父)

堂の建築家

図四六 アラスのマティアーシユとペトル・パルレーシユ(聖ワイト大聖



図四五 カレル四世とフランシユ(フランカ)・ヴァロワ(最初の妻



図四七 パルドウビツエのアルノシュト(初代ブラハ大司教)(上)、ヴラシ
ミのヤン・オチコ(第二代ブラハ大司教)(下左)とイェンシュテインのヤン(下
右)(第三代ブラハ大司教)

